

横浜市中央図書館のあゆみ① ～ “野毛の図書館” の誕生まで～

市民のみなさまに“野毛の図書館”として親しまれた、
横浜市図書館(現中央図書館の前身)誕生までを振り返ります。

横浜市立図書館の歴史は、実は中央図書館が建つ野毛ではなく横浜公園の一角から始まりました。大正8年に開港60周年・自治制施行30周年記念事業として横浜公園内に建設が計画され、大正10(1921)年6月に仮閲覧所が開設されました。これが横浜市立図書館の創立です。残念ながら写真は残っていません。

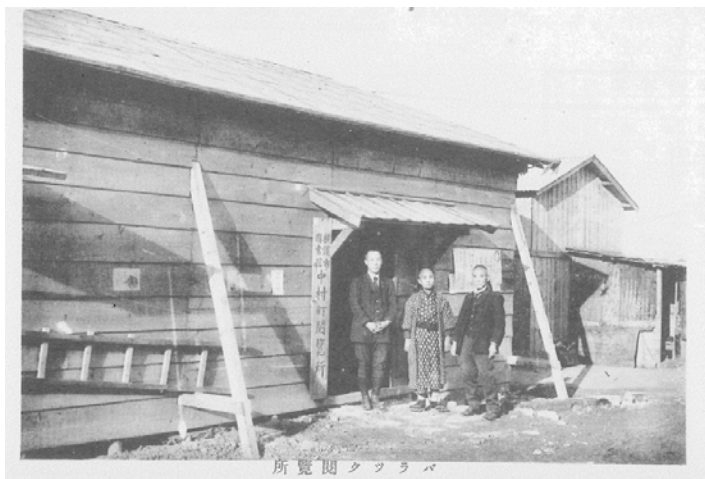
当時の図書館は有料で、館内閲覧料は1回2銭、館外閲覧料は1か月50銭でした。館外閲覧には他に保証金5円も必要でした。ちなみに当時の映画館の入場料は30銭ほどだったようです。

この仮閲覧所は館内が狭かったため館外貸出に努めましたが、館内閲覧を希望する人が多く、毎日入館を断らざるを得ない状況だったと、当時の業務日誌が伝えています。

年月	事項
1919(大正8)年12月	開港60周年・自治制施行30周年記念事業として図書館の建設を計画
1921(大正10)年6月	横浜公園内の建築事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市立図書館の創立)
1923(大正12)年9月	関東大震災により建物と蔵書を焼失
12月	中村町に仮閲覧所を設置し、閲覧開始
1924(大正13)年3月	横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催
4月	閲覧業務を開始
9月	館外貸出を実施
1927(昭和2)年7月	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工

しかし大正12(1923)年9月、関東大震災で仮閲覧所の建物・施設をはじめ、蔵書約13,000冊を焼失してしまいました。震災後再び活動を開始しますが、図書の入手には非常に困難を極めました。佐賀県立・大阪市立図書館などを始めとした各地からの寄贈図書や県下及び市内の篤志家からの寄贈図書に購入図書を加えて、中村町の仮閲覧所で閲覧を開始したのは震災から3か月後のことでした。

その後、2度の移転をし、ようやく昭和2(1927)年7月、野毛の地に横浜市図書館(現中央図書館の前身)が竣工したのでした。



中村町仮閲覧所 関東大震災から3か月後
大正12(1923)年



横浜市図書館(現中央図書館の前身)竣工
昭和2(1927)年

横浜市中心図書館のあゆみ② ～市立図書館の歴史とこれから～

■野毛図書館1館の時代

昭和2(1927)年に横浜市図書館(通称“野毛の図書館”、現中央図書館)が開館した後、市内に図書館が1館の時代が長く続きました。

そんな中、昭和29(1954)年に10人以上の地域や職場のグループを対象とした団体貸出を開始し、昭和45(1970)年には、移動図書館はまかぜ号が市内の団地などの駐車場26か所の巡回を開始し、多くの利用者で賑わいました。

■地域図書館の整備

昭和49(1974)年、市内に2番目の図書館として磯子図書館が開館。その後、1区1館ずつ図書館の建設が続けられました。

■中央図書館建設計画

昭和61(1986)年、「横浜市中心図書館基本構想委員会」が設置され、中央図書館の建設が具体化しました。

平成2(1990)年1月横浜市図書館は休館し、9月に解体され、中央図書館の建設に着手しました。

■中央図書館の開館

平成6(1994)年に中央図書館が開館し、市立図書館全館が図書館情報システムでつながりました。

■1区1館の達成

平成7(1995)年の都筑・緑図書館の開館で1区1館を達成し、現在の18館となりました。

※磯子図書館はその後平成11(1999)年、磯子区役所総合庁舎地下1階に移転しました。

■市立図書館のこれから

そして今、市立図書館では、図書館サービスを取り巻く環境変化や新たな課題に対応するため、次の各プランを策定し取り組んでいます。

※各プランの内容については市立図書館ホームページ(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/unei/>)

でご覧いただけます。

- ・「横浜市中心図書館司書人材育成計画」
平成22(2010)年9月策定
- ・「横浜市中心図書館アクションプラン」
平成23(2011)年1月策定
- ・「蔵書再構成5か年計画」
平成23(2011)年3月策定
- ・「横浜市中心図書館児童サービス5か年計画」
平成23(2011)年3月策定



↑移動図書館「はまかぜ号」の巡回が始まった当初の頃はまかぜ号の本棚に集まる人たち(年代不明)



↑磯子図書館の様子 昭和53(1978)年
資料提供: 横浜市史資料室



↑現在の中央図書館